



# ＜フィリオ 30 を使った「訪問歯科における衛生管理」について＞

汚染された器具を長く放置すると、その後の消毒や滅菌の効果を低下させたり、器具への損傷にも影響しやすくなる為、汚染された器具は速やかに、汚染物を除去する事が望ましいと言われます。しかし、訪問先では高齢のご利用者や障害者の患者様への配慮や環境上の問題から、困難な伴うリスクは多くあると聞きます。その為、消毒剤等の選択も容易ではありません。アルコールもタンパク凝固作用があり、洗浄を事前に要しますし、樹脂材質の開口器などは、アルコールは劣化させてしまうと言われています。そのようなリスクを補う点ではフィリオ 30 は、環境や人の安全でタンパク凝固作用がなく細菌やウイルスを除去して、残留塩素が少ない水になっていき、ミラーや樹脂にも優しく使用出来る事で、訪問や往診先に“適材適所”と示唆します。

## ※ATP 測定による 汚染物のテスト

2015年9月横浜市つなしま歯科医院にて ①外した開口器の汚染物は30万 (RLU) ②フィリオ 30 の5倍希釈で満遍なくスプレー



③ティッシュペーパーで拭き取りました ④ 46 (RLU) 99%以上除去されました。残存率：0.02%



＜考察＞ 開口器やミラーに付着した口腔内からの汚染物は、見た目にはさほど、汚れは目立ちませんが、

ATP で計測すると、このテストでは30万 (平均的でも10万 RLU 以上は数値がでます) ※当社調べ  
今回の ATP テストでは、30万 (RLU) から46 (RLU) まで。残存率 0.02% まで除去しましたが、これは、フィリオ 30 の除タンパクの効果もあると思いますが、ティッシュペーパーによる拭き取りも、かなり効果もあげていると示唆します。汚染物を拭いた個所で、二度拭きしてしまった場合、せっかく除去した汚染物を再び付着させるようなものです。これだけは絶対に避けねばなりません。そういったケースも想定すると、ティッシュペーパーは広い面積があるので、“うっかり”同じ個所で拭き取りが少なく、きれいに拭きとれ、安価です。この場合はティッシュペーパーが適材か、と思います。

＜訪問先での使用＞ 訪問先では、フィリオ 30 のみで使用します。

1) 器具の清拭 ※フィリオ 30 をティッシュペーパーに浸みこませて、同じ個所を避けながら十に拭き取ります。



2) 印象物の除菌 ※直接スプレー噴霧します (水洗が可能な場所であれば、水洗して、スプレー噴霧)  
除菌後は、そのまま放置しても、残留塩素の低い水になっていきます。

